

起因物、事故の型：その他の装置、設備 - 高温・低温物との接触の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	業種小 コード	労働 者規 模
1	13～ 14	洗い場にて洗浄作業中、水道より出ている熱湯にふれてしまい、左手人差し指・中指・薬指の第二関節から手の甲の中ほどまで熱傷を負った。	51	80209	—
1	8～9	1F冷凍茹で槽前にて、超鮮度うどんの製造中に、ザル状のカゴが槽に引っかかったので1人で引き抜こうとしたところ、うどんが入ったザルを傾けてしまった為に、熱湯が右足にかかり火傷を負った。	16	10109	100 ～ 299
1	16～ 17	調理場でフライヤーの掃除をしていた時、ゴミを流す為お湯を入れた鍋（片手持ち20cm）を手にしたまま下にあるゴミのザルを直す為、かがみこんだ時にお湯をかぶってしまい、右の頬から首と左腕を火傷した。	65	80209	—
1	3～4	塗型作業場でアルコール塗型作業中に、アルコール着火者が製品台車を移動中だった為、本来行わない着火作業を行い、背面に火が付いた事に気付かず、塗型作業に戻った。背面に異常を感じた時にはすでに衣服が燃えていて、火傷を負った。	25	10909	1～9
1	12～ 13	仕上げ場で、ストーブをつけて仕上げ作業をしていた。ストーブは自身の右後ろ側においていたが、昼ごろ右ふくらはぎ部分に違和感を感じたが、特に確認はしなかった。帰宅して確認したところ、腫れて水膨れがひどい状態だった。	33	10903	50～ 99
1	11～ 12	会社の工場で、ろ過後の温泉水を熱殺菌処理を行うため機械配管内を薬液洗浄した後（2週間に1回定期的な作業）、機械を作動させ配管内を確認したところ、浮遊物があったため洗浄をやり直そうとした際、配管内の製品水が高温（85℃程度）だったのにもかかわらず、配管継手を取り外してしまったため、配管内の製品水が漏れて両腕にかかり火傷した。	27	10106	10～ 29

2	6~7	調理場で煮物の下準備中、大鍋を移動させようと持ち上げて歩いたところ、つまずき、熱湯をかぶってしまった。	41	140201	10~ 29
2	10~11	クリーニング工場でズボンのプレス作業をしている時に、右手が挟まれ上記プレスされ火傷を負った。プレス作業は安全のためプレス機のボタンを両手で押した後、ズボンのずれに気づき、慌てて手を入れてしまった。	38	11703	30~ 49
2	2~3	店の厨房にて、閉店の閉めの作業中高所の棚に置いてある調味料を取ろうとした時に、清掃の為に通路の床に取り出して置いてあったフライヤーの熱い油が入った油受けに誤って左足が引っ掛かり転倒し、ひっくり返った油請の油がかかってしまい、広範囲に火傷を負ってしまった。	24	140201	—
2	19~20	派遣先にて、味噌汁をお客様に提供する際に、IHヒーターで温めてた寸胴のラップを剥がした時に、噴き出して来た上記が手にかかり火傷をしてしまった。	24	140101	100 ~ 299
2	20~21	キッチンで、フライヤーを、清掃しようと、近くにあったステンレスのカゴを、片付けた際、手が滑り熱い油の中に落としてしまった。はねた油が、右手肘から、手のひらにかけてかかり、火傷を負った。	20	140201	10~ 29
2	19~20	派遣先にて、味噌汁をお客様に提供する際に、IHヒーターで温めていた寸胴のラップを剥がした時に、噴き出してきた蒸気が手にかかり火傷をしてしまった。	24	170101	100 ~ 299
2	14~15	本人は、会場から陸揚げされた観測ブイの点検調査を行うため、同僚と共にブイ上部の踊り場に上がり、踊り場床面のマンホールを開けた。同僚はマンホールからブイ内に入り、本人は踊り場で同僚の作業を監視していた。同僚がバッテリー格納室のマンホールを開けるため、固定ボルトを外し、バールを使用してマンホールを開けようとした時、バッテリー格納室内に充満していたと思われる可燃性ガスにより、爆発が発生し、本人は爆風により踊り場から転落し安全帯でぶら下がった状態となり受傷した。	28	11501	1000 ~ 9999
		本人は、会場から陸揚げされた観測ブイの点検調査を行うため、同僚と			

2	14~15	共にブイ上部の踊り場に上がり、踊り場床面のマンホールを開けて、本人がブイ内に入り、同僚は踊り場で作業を監視していた。本人はブイ内 部にあるバッテリー格納室のマンホールを開けるため、固定ボルトを外 し、バールを使用してマンホールを開けようとした時、バッテリー格納 室内に充満していたと思われる可燃性ガスによる爆発が発生し、爆風に より、被災した。	31	170209	1000 ~ 9999
2	15~16	店内厨房にあるグリル（肉焼成専用機器）前にて、ハンバーガー用牛肉 をグリルから保管用トレイへ移す際、グリル上部の鉄板（218℃）に左手 甲部分が触れ、1度の火傷をした。翌月職場復帰の見込みである。	20	140201	30~ 49
3	15~16	クリーニング工場内において、綿プレス機で白衣の横部分のプレス作業 を行っていた際、本来は白衣を安全ピン等で固定してからプレス機のボ タンを押すべきところ、急いでいたため手で固定して肘でボタンを押 し、下がってきた熱板に右手を挟まれ火傷を負った。	52	11703	30~ 49
3	12~13	会社内の納品作業場で製品（シャツ）のアイロンプレス作業中に、誤っ てプレス機に手をはさみ火傷した。	55	10301	50~ 99
3	13~14	店内キッチンにてグリルを清掃中、スケッパーで汚れを落としていたと ころ、熱い油がはね、左手示指、中指を火傷した。	60	140201	30~ 49
3	8~9	朝のそば注文のピークが終わったあと、右手に痛みがあり、右手を見ら ると大きな水疱ができていた。	52	140201	1~9
3	23~24	ヘルプ先である店バックにて、カレーウォーマー清掃のためお湯抜きを しながら別の作業を行っていたところ、誤ってそこに左足を当ててしま い、左足踵部分に熱湯が掛かり火傷を負った。	45	140201	10~ 29
3	9~10	電気ポットの前日の残り湯を捨てる際に、流しの脇にポット置いてフタ をはずしたところ、ポットが倒れ足を火傷した。	52	130201	30~ 49
3	12~13	入所者への飲み物をつくっている途中、ポットの湯をプラスチック製の 容器に入れて、そのあと容器のフタをし、容器の中に入れてあった粉と お湯をまぜるため容器を手でふっている途中、その容器が割れてしま	20	130201	50~ 99

		い、中の湯が飛び散ってしまった。そのとき湯が左手と左手首にかかり火傷した。			
3	11~12	食養科の調理室で、使用済みの食用油を再生処理後に再生した油をフライヤーに入れる為、コロが壊れていた油処理機を移動中、処理機の油が一杯だったので中の油が跳ねて左腕にかかり、肘下から手首を火傷した。	61	130101	500 ~ 999
4	17~18	店内厨房にてフライヤーの清掃中に、一つの清掃終了後バットの蓋をしようとした所、少しずれておりうまく閉める事ができず、力を入れて押し込もうとしたところ蓋が滑ってしまい、蓋ごと誤って油の中に右手を入れてしまい、右手甲部に火傷をしてしまった。	68	140209	30~ 49
4	14~15	洗濯室の洗面台の蛇口（お湯が出る方）から、お湯が漏れ出していたため蛇口の交換をしようとしたところ、元栓を探したが見つからず元栓を閉めない状態で作業を行った。その作業中にお湯が吹き出し、お湯を止めようとして左手にお湯がかかり、右手で蛇腹をつかんでしまい熱傷を負った。	59	130201	50~ 99
4	16~17	閉店作業中、ヘラ等を洗浄するためシンクに置き、電気ポットのお湯を掛けようとしたところ、誤って右足にお湯をこぼし、右足に熱傷を負った。	25	170209	10~ 29
4	13~14	被災者は、お湯でボウルを洗浄しようとしていた際、水と蒸気のレバーの開閉を確認すると水（閉）、蒸気（開）になっていた。この状態でお湯が出ると勘違いしワンタッチレバーを開けたため、ホースから蒸気だけが排出され、ホースの末端が置かれていた右足首付近に噴き出し、右足首に火傷を負った。	24	10101	300 ~ 499
4	11~12	給食で提供する揚げパンを揚げていたところ、パンの落下により、油が左手の中指・薬指・小指・甲・左手首、及び左腕にはねて火傷を負った。	55	10109	1~9
4	14~	病院屋上にて蒸気配管の改修時に、熱水を逃して作業中、熱水をすべて出しきったので継ぎ手部分を取り外して作業をした時、残っていた熱水	59	30302	1~9

	15	がかり両手の甲とお腹をやけどした。			
4	18～ 19	店内調理場にて、揚げ物をしている最中に、通常コンロが左側にあるため揚げ物を入れるバスケットの取っ手は手前に向けておくべきところを、不注意でコンロ側にむけていた為、コンロの熱で高温になっていたのに気付かず握ってしまい、右手のひらを火傷した。	20	140201	50～ 99
4	20～ 21	厨房内にて閉店作業中スープの寸胴を清掃する為、排水溝にお湯を流そうとしたところ水量が多くはね返ってきたお湯が左足首にかかり火傷した。	42	140201	10～ 29
4	17～ 18	同社工場の横（敷地内）を歩行中、湯洗（塗料の付着した治具を乾かしやすい状態にする場所、100℃近い温度）の近くで足元が濡れていて滑りバランスを崩した際に、右腕（肘付近）が湯洗に入ってしまう火傷した。	19	11209	50～ 99
4	10～ 11	厨房で、カツオブシを入れて出汁をとっていた寸胴鍋を傾けて中のカツオブシを網でこしていたとき、誤って出汁が右足にかかり火傷を負った。	31	140201	10～ 29
4	11～ 12	店舗内水産部の作業場にて清掃作業をしているとき、まだ冷めていないフライヤーの縁を拭いて手を滑らせてしまい熱い油の中に手が入り、右手に火傷を負った。	34	80209	100 ～ 299
4	12～ 13	スチームコンベクションオーブンの上にあった鍋つかみを取ろうとしたらスチームコンベクションの扉が開いて、蒸気により腕を火傷した。	59	10109	1～9
5	8～9	当社工場内において生昆布のボイル作業中、ボイル作業が終わり、タンクから使用した熱湯を捨てている時に誤ってタンクに近付き、長靴に熱湯が入り左足甲を負傷した。	52	10102	10～ 29
5	12～ 13	厨房にて、スープジャーの中に入っていたお湯の量を減らそうとジャーを持ち上げた際に、自分の体の方へ傾けた状態で引くように持ち上げた為、中のお湯が右足にかかりコックシューズの中に入り込み、右足裏に熱傷を負う。	21	140201	10～ 29

5	13～ 14	ホテル内レストラン厨房で客用コーヒーを大量用意中、コーヒーマーカークのドリッパーが空であると誤認し、あふれていた熱いコーヒーがドリッパーを手前に引いたことにより、左手甲・指部分にかかり火傷を負った。	65	140101	100 ～ 299
5	14～ 15	そばを作っている時向かい側のつゆが少なくなり、つゆの寸胴がゆで釜に浮いていて、そこにつゆを足した時に寸胴が沈み、その反動でゆで釜の熱湯が溢れ、左足のふくらはぎに熱湯がかかり火傷をした。	50	140201	10～ 29
5	19～ 20	調理機器の油の交換及び清掃作業中に機器内に溜められたお湯が加熱され誤って蓋をしてしまった。沸騰している状況で機器の蓋を開けてしまった者のそばで、別の清掃作業中の本人に噴き出した熱湯が体にかかり火傷をした。	16	140201	10～ 29
5	19～ 20	調理機器の油の交換及び清掃作業中に、機器内に溜められたお湯が加熱され、誤って蓋をしてしまった。沸騰している状況で機器の蓋を開けてしまい、噴き出した熱湯が両足にかかり火傷をした。	17	140201	10～ 29
5	14～ 15	本社1号館メッキ職場にて、大型金管楽器のメッキ作業の最終工程の湯洗い工程にて、ワークを湯洗いしていた。保護具を着用（長靴は滑りにくい指定の物）し、槽の前に立ち両足を平行にして腰を曲げて腰を下ろし膝を槽に当て上半身を曲げてワークを湯洗槽に入れて洗浄していた。その際に濡れたグレーチングで足を滑らせ、上体が前に出ている為バランスを崩し、上半身が湯に浸った。	46	11709	500 ～ 999
5	11～ 12	作業場でフライヤーのかき揚げリングの清掃中、油がはねて左手を火傷した。	60	80201	50～ 99
5	12～ 13	厨房にて昼食盛り付け時、ウォーマーの上にあるホテルパンを差し換えようとして、下から出ている蒸気（ウォーマーの中には熱湯が入っている）が右手指に当たってしまった。	44	140209	10～ 29
5	9～ 10	作業場でフライヤーの拭き掃除をしていた際、手が滑って油の中に突っ込んでしまい、両手を火傷した。	50	80209	100 ～ 299

5	19~ 20	調理場でディスプレイを見ながらの作業中、足元の引き出しが開いていることに気付かず躓き、鉄板の上に右手を置いてしまい、右手のひら全体を火傷し水ぶくれになった。	20	140201	10~ 29
5	23~ 24	夜間、構内の通常設備点検を実施していた際、スチームトラップ周りで多量の湯気が上がり、トラップ2次側のドレンポットから凝縮水が溢れ出ている事を確認した。ポット周辺には、溢れる凝縮水が大きな溜まりを作っていたため、近くで状況を確認しようと近づいたところ、誤って右足を高温の凝縮水溜りに入れ、右足首くるぶし下に熱傷を負った。	41	10801	50~ 99
6	22~ 23	当店厨房内にてフライヤーの油の交換作業中、フライヤーに近づいた際、フライヤー台の脚部分に自身の足が当たり、その衝撃で油が跳ね両足にかかり、甲部分を火傷したものである。	19	140201	30~ 49
6	9~ 10	出汁釜の火を点けようとしたところ、ガスが漏れていた為、勢いよく火がボンと点いたので、右手甲・中指・人差し指を火傷した。	22	140201	30~ 49
6	14~ 15	当社工場内、業務用充填機作業所において、メープルシロップ充填後の熱湯洗浄作業を終えた時、ストレーナー内の熱湯を出すため取り外したところ、熱湯受けのバケツを使用して取り外すところ、うっかりして使用せず取り外してしまったため、ストレーナー内に残っていた熱湯が左足の作業靴にかかり、小指と薬指に火傷を負ってしまった。	46	10109	30~ 49
6	14~ 15	解凍場でお湯張り作業をする際、作業手順通り（水を通してから蒸気を出す）行ったはずだが、最初に蒸気だけが出てきたため、ホースが暴れ、ホース横にいた2名に生蒸気がかかってしまい火傷してしまった。この日2回目のお湯張り作業だったので、1回目のお湯張り作業終了時に、しっかり蒸気バルブが閉まっていなかった可能性があり、微量だが給水管に蒸気が溜まっていたので、水より先に蒸気が出てしまった事が考えられる。	19	10102	30~ 49
		9Fキッチンでお茶の準備をしていた。ポットの水を足そうと軽量カップを探すもカップがなかった為、直接キッチンの蛇口から水を入れようと			

6	13～ 14	思い、ポット本体を両手で持ち上げた。その時、キッチンカウンター前を ご入居者が不安定な状態で歩行されていた為、お名前を呼び気を取ら れた瞬間に、手を滑らせてポットを床に落としてしまった。その際、右 足首から甲にかけ熱湯がかかり火傷した。	57	130201	30～ 49
6	5～6	当該事務所において、軟飯を調理している際に、スチームコンベクショ ンオーブンの扉を左手で開けたところ、200℃以上もあるスチームが右腕 に当たり火傷を負った。	28	80209	1～9
6	14～ 15	木造納屋の解体工事中に、屋根から降ろした太陽熱温水器の中の水を抜 こうとして、ドレインを開けたところ、熱湯が出て、右足の甲にかかり 火傷をした。	24	30209	1～9
6	20～ 21	店舗にて勤務中、閉店業務として店内用のポットの残ったお湯を捨てよ うと蓋を開け、流し台へ傾けてお湯を捨てていたところ、熱湯が右手に かかり、右手熱傷との診断を受けた。（約3週間から4週間の加療を要す る見込み）	49	80209	1～9
6	10～ 11	事業所5Fホールにて、利用者様用の白湯を作っている時、お湯の入って いる透明の容器が倒れて両下腿にかかった。	34	130201	100 ～ 299
7	10～11	粉系ICIP室でマグネットフィルター点検時、マグネットフィルターの蓋を 外す際、ラインより勢いよく水が噴出し、次いで熱水が噴出した。熱水 から逃げるために振り向いた際に両足脛に熱水がかかり火傷を負っ た。	24	10101	50～ 99
7	15～16	学校給食センター調理場内の消毒保管庫上部の清掃作業中、蒸気配管部 分に誤って右前腕内側を接触させてしまった。	49	10109	10～ 29
7	21～22	店舗内客席テーブルにおいてお好み焼きを焼いている際に、テーブルが 動いた拍子に体勢を崩し、とっさに右手を鉄板の上についてしまい受傷 したものである。	20	140201	30～ 49
7	15～16	右側のフライヤーの前で手元が滑って、油の中に入ってしまった。	36	140209	1～9

7	7~8	業務開始前に作業場の扇風機を作動させようと、構内の壁にあるコンセントに延長コードのプラグを差し込み、次に本体の差込口に扇風機のプラグを差し込んだところ、延長コード本体付近のコードから火花が発生し、延長コードを持っていた右手指を火傷した。	65	40301	100 ~ 299
7	16~17	当該事業所において夕食の調理時に、スチームコンベクションを使用。100℃以上の高温設定をしていたが、右手で扉を開けて左手で上においてあるミトンを取ろうとした瞬間に、左腕の肘から手首にかけて蒸気をあびてしまい、火傷をしてしまった。	50	80209	1~9
7	11~12	布処理工場にて布処理工程を監視中に、乾燥機から出てくる処理布冷却用鉄ロールを冷やすための冷却水の通っているホースが突然外れ、高温（70℃~80℃）の湯が噴出し、左顔面及び左眼に浴び負傷。直後にアイシング等応急処置をし、当日は終日作業をしたが、翌日左瞼が腫れたため、念のため、受診を班長が指示した。	44	170101	50~ 99
7	15~16	ダンプのバンパーに両足を乗せて荷台のセメントを引っ張り下ろそうとしたときに、左足から地面に降りたが、地面のアスファルトまでの距離が思ったよりもあり、つま先立ちになってしまい、左足に体重がかかり、足を痛めてしまった。	43	130201	50~ 99
7	11~12	店内カウンターエリア内で、アイスコーヒーの抽出作業中、コーヒー豆を入れるホッパーの設置が完全でなく、お湯の溜まったホッパーが落下しそうになり、咄嗟に左手で5秒ほど支えた際に受傷した。	17	140201	50~ 99
7	11~12	小学校の厨房内でスチームコンベクションの操作方法を勉強している際に室内が高温だったこともあり意識が飛び倒れ込んでしまった。その際立って聞いていたので左足を捻ってしまった。	22	140201	10~ 29
7	8~9	惣菜作業場にて食材をコンベクションオーブンで蒸していたところ、いきおいよくホテルパン（鉄の皿）をひきだしたため、中の水分がはね、腕にかかった。その部分が火傷した。	33	80209	100 ~ 299
		当社店内の惣菜作業場で、スチームコンベクションを100℃に温めてシューマイを蒸そうとしていた時、スチームコンベクション（業務用加			100

7	12~13	熱調理機器)のドアを開けた際に顔を近づけすぎたため、蒸気を浴びて顔を負傷したもの。	36	80209	~ 299
7	11~12	キッチンで朝のモーニングが終わり、新しく湯煎の鍋のお湯をかえる際ふりむいた時に体と体が当たって鍋の熱湯が腕にこぼれた。	48	140201	30~ 49
7	19~20	手に持った器に冷めきらない時に器に熱湯を入れたら器の底面が溶けて熱湯が両足にかかった。ナイロン足袋を履いていたものがきつくて脱げず貼りついてしまった。器が冷蔵庫から出して冷たかったものに熱湯が入り弱くなったため。	55	140101	30~ 49
7	11~12	店厨房内において、専用グリルによりパティを焼く作業に従事していた。パティを焼いた後、専用器具を用いてグリル表面を掃除していたところ、手が滑り、右手握りこぶしの状態でグリル表面につき、右手中指(手の甲側)を火傷した。	19	140201	30~ 49
7	10~11	クリーニング工場内でシャツをプレスするためにプレス機を扱っているときに、プレス機上部を上下させるスイッチに近くにあったハサミを用い、下がらないようにしていたが、誤ってハサミがはずれ、プレス機に左腕を挟まれ火傷した。	93	11703	10~ 29
7	16~ 17	事業部ロール部門において、包布を流している際に包布の端の部分が中に入っていた為に直そうと手をのばし、包布に手を入れてしまい、ロールバットの下に手が入ってしまった。それにより、左手に火傷を負い、現在治療の為に入院している。入院後火傷による左手指の切断の処理が行われた。	19	11703	30~ 49
7	8~9	地下1階レストランにて、コーヒーマシンを使用しコーヒを抽出しようとしたときに、まだマシーンが抽出中だったことに気づかずにフィルターカバーを外してしまい、左手人差指から薬指にかけてマシーン内の熱湯がかかってしまった。	19	140101	100 ~ 299
7	16~ 17	調理場内にてフライヤーの掃除中、油を抜くときに下からのぞきながら、パイプに詰まっていた揚げカスを菜箸で突いていたところ、揚げカ	63	80209	50~ 99

		スが抜け勢い余って、油の中に右手を突っ込んで受傷した。			
7	13～ 14	1階温総菜作業場で、天ぷらを揚げる作業中、揚げカスが溜まってきたのでカスを取るため、油の中に沈んでいるヒーター管を上げた。揚げカスをすくっている最中に、固定しているストッパーからヒーター管が外れて倒れ、そのまま油の中に落下した。落下した反動で油がはねて、全身に油をかぶった。	32	80201	300 ～ 499
7	18～ 19	厨房にてお子様カレーを調理時、加熱したカレーを盛り付ける際に、手が濡れていたため手が滑り、右手にカレーがかかり、右手人差し指・中指・薬指と右掌に火傷を負った。	18	140201	10～ 29
7	11～ 12	事業所の厨房内にて、回転釜でお湯を沸かして野菜を茹でていた。次に野菜を追加で茹でようと、回転釜を傾けて後方の野菜を取ろうとしたとき、回転釜の中のお湯の重みで予想以上に傾き、中のお湯が両足の足首から下にかかり火傷した。	33	80209	30～ 49
7	3～4	キッチンで作業中に、フライヤーの底網についた食材を取ろうとして、誤って右手人差し指を油の中に入れてしまい火傷をした。	28	140201	30～ 49
7	16～ 17	工場内の熱処理作業場（ADI処理施設）にて、減水装置（減150）の稼働状況確認を行っていた。自動運転にて稼働中、高温ソルト（150℃程）の排出工程となったところで、排出口に左手を入れて掻き出そうとしたとき、自動で扉が閉まったため手を挟み、圧迫と高温ソルトで受傷した。	53	11209	50～ 99
7	23～ 24	グリドルクリーナーで餃子グリルを清掃中、クリーナーを拭き取る際にその油が右手の甲・中指・薬指にかかり、火傷を負った。	29	140201	10～ 29
7	11～ 12	入院患者に対して昼食の準備をするため、3階配膳室にて薬缶で湯を沸かし、ポットに湯を注ぎ入れようとして薬缶を持ち上げたところ、把手が外れ、中の熱湯が両足にかかった。	43	130101	30～ 49
7	14～ 15	うどんだし用のお湯を補充しようとしたとき、スープジャーに入っていたレードル（お玉）に寸胴（お湯が入っている）が当たり、バランスを	25	140201	10～ 29

		崩し、お湯が足にかかり火傷を負った。			
7	16～ 17	工場内の休憩室を清掃していた。翌日より連休となるため、電気ポット内に残ったお湯を洗面台に排水した際、ポットの上蓋が外れ、自分の足の甲にお湯がかかり被災した。	57	10102	50～ 99
7	14～ 15	作業中、シンクに給湯器のお湯を出したとき、熱湯（約100℃）が右手にかかり火傷した。	63	150101	300 ～ 499
7	11～ 12	保育園の調理室で昼の給食の準備をしているときに、他人が持っていた沸騰した味噌汁が手にかかり火傷した。	33	130201	30～ 49
9	17～ 18	当社厨房内にて作業中、湯沸したやかんを移動する際に、片手でガスコンロから降ろし棚に戻す時にやかんが棚にぶつかり弾みでフタが外れお湯がこぼれて左右足部を火傷した。	41	130201	30～ 49
9	11～ 12	熱処理室ジェットオーブンでトーストパンを焼く作業を手伝っているとき、コンベアから焼きあがったパンを作業台におこうとして、布を何枚も重ねたつかみを使って網をつかむときに指が触れてしまった。大したことはないと思い、冷やさずそのまま作業を続けてしまった。その日は通常通り働き、公休日で3日間休み、日曜日に出勤。絆創膏を貼りかえる際に血が出てきたが、出血があるため現場作業はひかえてほしいということで早退した。左第二指に5mm程度の熱傷と診断された。	60	10109	300 ～ 499
9	23～ 24	ホール内にて、コーヒー用のポットを片付けるため、ポットの中のお湯を捨てようとしたところ蓋が外れ、中のお湯が左手甲にかかり負傷したもの。	30	140309	10～ 29
9	12～ 13	店のカウンターにて、業務用コーヒーメーカーでブレンドコーヒーを抽出中であつた事に気付かず、ブレンド粉を入れる器具を外した際右手甲～手首にかけて熱湯がかかり、熱傷を負う。後日、抽出中はパウチをコーヒーメーカーに貼り、抽出中と分かるよう対策した。	21	140201	10～ 29
9	13～	事業所内厨房事業所内厨房にて、熱い油の入った鍋を移動させる際に手	46	80209	1～9

	14	を離してしまい、油がこぼれ右足の甲を負傷した。			
9	13～ 14	当社工場内キッチンの消毒槽（約90度のお湯を溜めて、器具の殺菌消毒）において、お湯の中に器具（ tong ）を落としてしまい、とっさに拾おうとした。長ゴム手袋をはめていたため、手袋の中にお湯が入り火傷をした。	20	10101	50～ 99
9	15～ 16	工場内でプロパンボンベの付属品を取る作業中に、突然火のけのない所で引火して負傷した。	49	80109	1～9
9	23～ 24	機内台所にてお客様用の食事をオーブンで加熱後、オーブンのドアを開ける際、いつもは厚手のグローブを着用するが、その時は着用せずに開けたため、オーブン内の熱気（蒸気）が右腕に当たり火傷を負う。すぐに患部を冷やす応急処置をし、到着後現地で治療を受ける。	23	40103	50～ 99
9	10～ 11	味噌作り研修中に大豆を大型圧力釜で蒸し作業中、蒸し所要時間の20分が経過を確認後、圧力釜の蒸気を抜かずに蓋を開放したため、釜内部の熱湯及び大豆が噴き出し、左大腿部付近を火傷した。	60	170209	30～ 49
10	11～ 12	惣菜調理作業中、オーブンより焼きあがった魚を取り出しオーブンの上にあげた際、トレイが手前側に斜めになり、お湯と油の混ざったものが、右腕にかかり火傷した。尚、手には火傷防止用ミトンを履いていたが、手首から肘にかけて服の上から火傷を負った。	72	80209	30～ 49
10	9～ 10	椎茸を休養させるビニールハウス内で、暖房用のウッドボイラーに、火種として灯油を染み込ませた木屑を撒き薪を投入した際、前日の火種が残っていたため、木屑に染み込んだ灯油が気化したことに気付かず、ライターで火を点けた結果、気化したガスが燃え広がり右腕及び顔の一部に火傷を負った。	21	60101	10～ 29
10	20～ 21	店内キッチンにて、フライヤーの揚げカスを取っていたときに、誤って手を滑らせ170度のフライ油の中に手を突っ込んでしまい、左手に火傷を負った。	38	140201	30～ 49
	23～	IH炒め機の清掃のため煮沸を行い、清掃終了後IH炒め機の中にあるお湯			500

10	24	を廃棄しようとしたところ、長靴の中にお湯が入ってしまい火傷をしてしまった。	29	10109	～ 999
10	16～ 17	店舗内キッチンにて、作業台上がりダクト（換気扇）を清掃していたところ、足元が滑り、誤って稼働中のフライヤー（揚げ場）に左足先が入ってしまい、負傷した。	41	140201	30～ 49
10	10～ 11	就業場所において、ポットから沸騰させたお湯を注ごうとしたところ、ポットが破損しており両手にかかってしまった。お湯がかかった直後に冷やしたものの痛みが引かず、両手を熱傷した。	30	120109	100 ～ 299
10	10～ 11	就業先にて、ポットから沸騰させたお湯を注ごうとした所、ポットが破損しており両手にかかってしまった。お湯がかかった直後に冷やしたものの痛みが引かず、両手を熱傷した。	30	170201	500 ～ 999
10	10～ 11	刺身小鉢に若布の盛り付け作業中、コンロで味噌汁を作った他のスタッフが鍋の中身を保温器に移そうと鍋を持って移動した際、シンクで作業していた被害者の背中に腕がぶつかり鍋の中の味噌汁がこぼれた。その味噌汁が被害者の背中から足にかけてかかってしまった。	67	140201	1～9
10	20～ 21	店内キッチンにて、煮込みうどんの調理中、電磁調理器上で加熱され熱くなっていた鍋に触ってしまい、右手中指・環指付近に火傷を負った。	16	140201	30～ 49
10	21～ 22	フライヤー什器清掃の際、最後に熱湯で煮沸し、その煮沸したお湯をフライヤーから流しタンクへ捨てる際に、誤って内股、腿、足先まで熱湯がかかってしまった。	15	80209	10～ 29
10	11～ 12	野菜を揚げていて油が跳ね、左頬周辺に油が飛んで火傷した。	55	140201	10～ 29
10	0～1	店舗の厨房内でガスボンベのガス抜きとガスコンロの掃除と着火テストをしている時に、引火しガスが爆発して顔全体に火傷をおった。	30	140201	1～9
10	13～ 14	からあげの鶏肉をフライヤーに入れたところ、鶏肉がはじけて油が飛び散り腕にかかって火傷を負った。	40	80209	1～9
	13～	厨房内にて調理中、持病により意識を失った。その際、コンロに手を置			

10	14	いたまま座り込んだ体勢となったため、左手中指3本を火傷。皮膚移植の手術を行った。	53	140209	1～9
10	20～ 21	フライヤーで揚げ物を調理中、揚がった揚げ物をボウルに移した際、手を滑らせ誤ってボウルをフライヤーの中に落としてしまった。その時、油が大きく跳ね、顔を守るために反射的に右手を出し、油が右手の第2.3.4指にかかり火傷したものです。（通常であれば、フライヤー横で揚がった食材を移すべきところ、急いでいたため、フライヤー上空で移す作業をしてしまったものである。）勤務終了後も冷やし続けたが、腫れがひどくなり、痛みも引かなかった。	35	140201	10～ 29
11	10～ 11	当店厨房内にてはまぐりの汁を火にかけていたところ、火にかけたまま他の作業に気を取られていたため、鍋掴みに引火し、左手指（親指以外）を火傷したものである。	46	140201	30～ 49
11	11～ 12	BN1ブロック・フロアの背焼き作業をしていた。背焼き作業は椅子に腰掛けガスバーナーを使用して行うものであるが、作業中に突然他作業員にホースを引っ張られたことにより、使用しているガスバーナーの向きが変わり、ガス火炎が顔に当たり受傷した。	27	11501	1～9
11	10～ 11	学校給食共同調理場調理室で、釜で肉を炒めていた時、釜の奥の方の肉を炒めるのに、スパテラを使い身を乗り出した時、釜の側面に右大腿が当たってしまい、火傷した。右大腿第2度熱傷と診断された。	33	100109	50～ 99
11	13～ 14	工場内ラミネート機において製品のシート替作業中、古いシートと新しいシートを1m位重ねてラミネート機のローラーに挿入して行うところ、重なり幅が10～20cm位になってしまい重なり幅が少ないのでラミネート機の熱ローラー（約175℃）に上手くシートが入らないと思いシートに手を添えて熱ローラーに入れようとしたところ左手をローラーに挟まれ左手母指、示指、環指を裂傷と火傷をした。	24	10109	50～ 99
11	15～ 16	勤務先の飲食店で、フライヤーの網をフライヤーの中に落としてしまい、油が右腕全体に跳ね上がり火傷した。	29	140201	50～ 99
		当社営業所デイサービス施設調理室にて利用者の昼食調理中、天ぷら鍋			

11	11~ 12	で冷凍のフライを揚げている時、揚げ油が右手人差し指と薬指に跳ねて火傷した。	65	130201	30~ 49
11	12~ 13	勤務中に注文が少し多く入り慌ててしまい、普段より少し多く油を入れたフライパンで目玉焼きを作る際に温めたフライパンの取っ手を握ったところ、予想以上に熱かったことに驚きフライパンの油を手に被ってしまった。	24	140201	1~9
11	5~6	卵を炒めるために鍋にサラダ油を入れ熱している時に、鍋に火が入り火がついてしまい、その時手と顔を火傷し、火を消して鍋をガス台から下ろす時、鍋の油を誤ってこぼしてしまい足の甲に油をこぼし火傷してしまった。	61	80209	10~ 29
11	12~ 13	食堂内麺器の前で、麺の後片付け中、麺器前のガス配管に躓き、お湯が沸いている麺器に左手が入り広範囲で熱傷を負った。	56	80209	300 ~ 499
11	19~ 20	店の厨房で油の入ったフライパンをコンロにかけた状態で、後ろ向きになりしゃがんで冷蔵庫から物を取り出していた。振り返って、コンロにかけていたフライパンを服で引っ掛けて熱した油を身体に掛けてしまい火傷をした。氷で冷やしたが、全く治らないので病院へ行った。	24	140201	10~ 29
11	16~ 17	第二工場、建物の中にて、通常通り、金型サンプラーの溶接部分を、グラインダーで研磨していた。右手にグラインダーを持っていたが左手に持ちかえて、右手でペンを持ち、書きものをしようとしたところ、左手に持ったグラインダーがサンプラーに当たり、はね返った反動のまま刃の部分が右手首に接触した。	66	60101	10~ 29
12	17~18	店内厨房の洗い場前で、食材を取りに行こうとしたところ、社員が熱いままのスープが入っている鍋を運んでいる場に居合わせ、その社員が足元を崩し鍋の中身がひっくり返り、こぼれたスープがそのまま被災者の足元にかかり火傷を負った。	21	140201	30~ 49
		店の厨房内にて、茹で上がった卵の入った片手鍋をシンクに移動させよ			10~

12	14~15	うとした際、両手で持ったが重過ぎたため鍋が傾き、熱湯が左足の甲にかかり熱傷した。	27	140101	29
12	20~21	事業所内厨房にて、揚げ物をしていた際、足が滑り、手をつこうとしたところ、右手がフライヤーの中に入り、右手の甲と肘から先の内側に火傷を負った。	40	140201	1~9
12	12~13	惣菜厨房にて、フライヤーの油をこす作業の時に、ひざから足首にかけてスネの部分をやけどした。油を下に落とす際に、受け皿をしっかりと所定の位置までおいていなかった事が原因で、下に落ちずに手前に油がかかったものと思われる。すぐに氷で冷やして病院へ行った。	66	80209	10~29
12	18~19	ポテトバットをIHの上に置くとき、加熱スイッチをOFFにしたつもりだったがONになっており、再加熱されたポテトバットを右手で掴み火傷を負った。後日、患部の水膨れが潰れ、膿んでしまったので受診した。	20	140201	10~29
12	14~15	厨房にて、調理器具を洗浄中に、誤って茹で麺器に右手を突っ込み、右手人差し指と中指に火傷を負った。	18	140201	10~29
12	16~17	キッチンにおいて、コンベクションオーブンにて焼成完了した商品の在庫時に、左手でドアを開け、右手でミトンを取ろうとした際、発生していた蒸気で右手首から肘までを負傷した。	23	140201	10~29
12	14~15	ダクト工が、天井内で貫通部を開口する際、ベビーサンダーを使用した。その際、被災者は、すぐ横の天井裏で作業確認とダクトレールの再確認などを行っていた。隣で開口中の作業員から、火がついたとの報告を受け、見てみると天井裏に飛散し、堆積していた埃や保温材に飛び火していた。それを見て咄嗟に保温材を撤去し、火の粉を手で扇いで消火した際に、両手に火傷を負った。	40	30302	30~49
12	13~14	勤務先店舗内でスープ製造が終わったあと、釜の掃除を行おうと釜の近くに右足を踏み入れた際、通常は蛇口を閉めて清掃作業を行うが、お湯を出したままの状態ですぐ右足を踏み入れたため、右足踝から下部分に火傷を負った。	33	140201	1~9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_08.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_08.html)